

トランス・ビリビリガード・電工ドラム・キャプタイヤケーブル



トランス

トランス

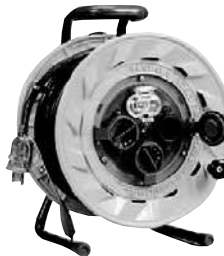
品番	品名(型式)	寸法(L×W×H)(mm)	重量(kg)	入力電圧	出力電圧
BMY3000	3KVAトランス (PT-30T) 屋内用	305×190×206	14.5	100V 200V	100V 115V
BMY3100	3KVAトランス (TB-EK300DW) 屋外用	215×260×230	18	200V	100V



ビリビリガード

ビリビリガード

品番	品名(型式)	電線長	コンセント定格	漏電遮断器
XXX0000	BFX-013KC (BFX延長コード0.7m)	コンセント側:0.2m プラグ側:0.5m	2P・15A・125V 接地付	漏電過負荷短絡保護兼用型 定格/2P 100/200V兼用 15A 漏電感度電流/15mA 高速形/衝撃波不動作形



防雨型・漏電防止ブレーカー付

電工ドラム

品番	品名	電線(太さ×芯数)	電線許容電流(A)	寸法(L×W×H)(m/m)	重量(kg)
KP200	防雨型・漏電防止ブレーカ付30m	2.0×3	15	315×259×392	8.1
KP400	メタルセンサー付30m	2.0×3	15	315×259×392	9.6

キャプタイヤケーブル

品番	品名
WF035~WF220	キャプタイヤケーブル (4芯) 3.5sq, 5.5sq, 8.0sq, 14.0sq, 22.0sq

※キャプタイヤケーブルの選定について

馬力 (HP)	容量 (kw)	定格電流 (A)	巨長 (キャプタイヤケーブル) / キャプタイヤケーブル (sq)													
			10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140
0.5	0.4	1.8	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	2	2	2
1	0.75	3.3	0.75	0.75	0.75	0.75	1.25	1.25	2	2	2	2	2	3.5	3.5	3.5
2	1.5	6.2	1.25	1.25	1.25	2	2	3.5	3.5	3.5	3.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5
3	2.2	8.2	2	2	2	3.5	3.5	3.5	5.5	5.5	5.5	5.5	8	8	8	8
5	3.75	14.4	3.5	3.5	3.5	3.5	5.5	5.5	8	8	8	14	14	14	14	14
7.5	5.5	21.1	5.5	5.5	5.5	5.5	8	8	14	14	14	14	22	22	22	22
10	7.5	27.9	8	8	8	8	14	14	14	14	22	22	22	22	30	30
15	11	47.6	14	14	14	14	22	22	22	30	30	30	38	38	50	50
20	15	55.9	22	22	22	22	22	22	30	30	38	38	38	38	50	50
25	19	69	30	30	30	30	30	30	30	38	50	50	50	60	60	60
30	22	82	38	38	38	38	38	38	38	50	50	60	60	80	80	80
50	37	137	60	60	60	60	60	60	60	80	80	100	100	125	125	125

発電機の選定

発電機の容量は電流×電圧 (VA) で示され、一般には1000倍KVAが使われています。KVAは皮相電力、Wを有効電力といいKVAとWの間には力率があり、単相機 $KW=1.0 \times KVA$ 三相機 $KW=0.8 \times KVA$ となります。

負荷の中には、定格で仕事をしているときに「定常時」、回りだすときに「始動時」といいます。その中でも、始動時に大きな負荷がかかり、機械によってその負荷が異なります。その代表的なものを下記に示します。

(例) 三相発電機の60KVAは何kwか
 $60KVA \times 0.8 = 48kw$

(始動時における負荷率)

- 白熱灯…………… 1倍
- ドリル・サンダー…………… 2倍
- ハイウォッシャー(3.7kw・200V)… 3倍
- 水中ポンプ3”(2.2kw・200V)… 3倍
- 水銀灯…………… 2.5倍
- ベルコン(1kw・200V)… 3倍
- 水中ポンプ2”(400W・100V)… 3倍
- 水中ポンプ4”(3.7kw・200V)… 3倍

(例) 2.6KVAの発電機で電気ドリル(400W / 単相100V)が何台使用できるか
 $2.6KVA \times 1.0 = 2.6kw = 2600W$
 $400W \times 2倍 = 800$
 $2600W \div 800 = 3台$

※右記計算方法は始動時の計算です。定常時荷は、4台まで使用できます。